

平成31年（2019年）度4月入学

千葉大学大学院

人文公共学府（博士前期課程）

学 生 募 集 要 項

【追加募集】
一般選抜

平成31年2月

目 次

I 募集要項

1. 専攻及び募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 出願資格ケ、コ、サの認定	2
4. 出願手続	3
5. 入学者選抜	5
6. 試験会場	6
7. 合格者発表	6
8. 入学試験に係る個人情報の提供について	6
9. その他の留意事項	6
10. 入学手続	7

II 人文公共学府（博士前期課程）案内

1. 学府の目的と概要	8
2. 専攻、コース、履修プログラムの名称及び学位の名称	10
3. 専攻、コース、履修プログラムの概要	10
4. 入学定員	12
5. 修了の要件	12
6. 教育方法の特例について	12
7. 長期履修学生制度について	13
8. 問い合わせ先	13

III 人文公共学府(博士前期課程)各専攻指導教員一覧

1. 研究指導担当予定教員一覧（平成 31 年度）（人文科学専攻）及び試験区分	14
2. 研究指導担当予定教員一覧（平成 31 年度）（人文科学専攻：教育学修支援コース）	16

IV 出願書類等

1. 出願書類等	
----------	--

I 募 集 要 項

日 程

出願資格認定申請：平成31年3月6日（水）～7日（木）

（注）出願資格ケ、コ、サより出願する者のみ

出 願 期 間：平成31年3月 6日（水）～ 7日（木）

入学試験日：平成31年3月15日（金）

合格発表日：平成31年3月22日（金）15時

入学手続日：平成31年3月27日（水）

1. 専攻及び募集人員

専攻・コース（履修プログラム）		選 抜 区 分 (○を付した選抜が実施されます)	募集 人員
		一 般 選 抜	
人文学専攻	基盤文化コース (哲学・倫理学、社会学・文化人類学、心理学・認知科学、歴史学、日本文学・日本語学、比較文化学、英語圏文化学、西洋古典学、言語学の各履修プログラム)	○	若干名
	多文化共生コース (ジェンダー論、ユーラシア研究、東アジア研究、イスラーム・比較社会論、ヨーロッパ研究、文化資源論、日本語教育研究、多言語社会コミュニケーション論の各履修プログラム)	○	
	教育・学修支援コース	○	

2. 出願資格

(1)「一般選抜」志願者

次のいずれかに該当する者。

- ア. 大学（学校教育法第83条第1項に定める大学をいう。以下同じ）を卒業した者及び平成31年（2019年）3月までに卒業見込みの者
- イ. 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成31年（2019年）3月までに学士の学位を授与される見込みの者
- ウ. 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成31年（2019年）3月までに修了見込みの者
- エ. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成31年（2019年）3月までに修了見込みの者
- オ. 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成31年（2019年）3月までに修了見込みの者
- カ. 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成31年（2019年）3月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- キ. 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成31年（2019年）3月までに修了見込みの者
- ク. 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- ケ. 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学府において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- コ. 平成31年（2019年）3月までに次の各号の一に該当する者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
 - ① 大学に3年以上在学した者

- ② 外国において学校教育における１５年の課程を修了した者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１５年の課程を修了した者
- ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１５年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

サ. 本学府において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、
２２歳に達したもの及び平成３１年（２０１９年）３月までに２２歳に達するもの

３．出願資格ケ、コ、サの認定（出願資格は、「２．出願資格」参照）

出願資格ケ、コ、サにより出願を希望する者は、下記により出願資格認定申請を行ってください。

（１）提出書類

【出願資格認定に係る申請書】

出願資格ケの者	・入学試験出願資格認定申請書（別紙様式） ・出身大学（学部、大学院）の成績証明書 ・出身大学（学部、大学院）の履修規程
出願資格コの者	・入学試験出願資格認定申請書（別紙様式） ・出身大学（学部）の成績証明書 ・出身大学（学部）長の推薦書 ・出身大学（学部）の履修規程 ・その他必要とする書類
出願資格サの者	・入学試験出願資格認定申請書（別紙様式） ・実務経験等に関する調書（別紙様式） ・最終学校の卒業証明書・成績証明書 ・その他必要とする書類
出願資格ケ・コ・サの者	返信用封筒（郵便番号・住所（日本国内）・氏名を記入して８２円切手を貼った長形３号封筒） 【外国人志願者のみ】 学歴調書（外国人志願者、別紙様式）

（注）出願資格コ・サに係る出願者は、出願前にあらかじめ人文社会科学系大学院学務グループへ問い合わせてください。

（２）提出期間・提出先

【提出期間】平成３１年３月６日（水）から３月７日（木）まで

受付時間は、９時から１１時３０分、１３時３０分から１６時３０分まで

（郵送による場合は、書留郵便とし、封筒の表に「大学院人文公共学府博士前期課程出願資格認定申請書」と**朱書きし**、平成３１年３月７日（木）１６時までに必着とします。）

【提出先】〒２６３－８５２２

千葉県稲毛区弥生町１番３３号

千葉大学 人文社会科学系大学院学務グループ（文学部棟１階）

電話：０４３－２９０－２３５４

（３）結果の通知

平成３１年３月８日（金）に電話により通知します。

（４）その他

- ・出願資格「コ」に係る成績確認等最終判定について

出願資格コの者で、合格者は、平成３１年３月２８日（木）までに再度、成績証明書（３年次までに修得

したすべての科目・単位を記載したもの)を提出してください。

なお、外国において学校教育における15年の課程を修了見込で申請書を提出した者は、修了(卒業)証明書及び出身大学の成績証明書を提出してください。

提出された書類に基づき可否の最終判定を行います。この場合、判定結果によっては合格を取り消す場合もあります。

最終判定の発表は、平成31年3月29日(金)10時です。

4. 出願手続

(1) 出願期間

平成31年3月6日(水)から3月7日(木)まで

受付時間は、9時から11時30分、13時30分から16時30分まで

(郵送による場合は、3月7日(木)16時までに必着とします。)

(2) 出願方法

ア. 出願書類等は一括して提出してください。

イ. 出願書類を郵送するときは、日本国内から郵送する場合は書留郵便とし、封筒の表に

「**大学院人文公共学府博士前期課程入学願書**」と朱書きしてください。

日本国外から出願する場合は、必ずあらかじめ大学院学務グループ(gah2352@office.chiba-u.jp)へメールで連絡の上、EMSで送付してください。事前の連絡がない場合は、出願書類を受理しないことがあります。

ウ. 出願書類提出先

〒263-8522

千葉県稲毛区弥生町1番33号

千葉大学 人文社会科学系 大学院学務グループ (文学部棟1階)

電話: 043-290-2354

(3) 検定料

ア. 日本国内居住の志願者

30,000円

出願前に最寄りの銀行等(ゆうちょ銀行は除く)に行き、本募集要項の所定用紙(振込用紙)を使い、検定料**30,000円**を必ず銀行等窓口(現金自動預払機(ATM)は使用しないでください)で振り込んでください。振込方法は電信扱い、振込手数料は本人負担となります。入学願書の裏に検定料振込証明書「貼付用(大学提出用)」を貼ってください。なお、検定料振込証明書「貼付用(大学提出用)」に取扱金融機関出納印がないものは無効となりますので、金融機関で受領した際に必ず確認してください。願書を持参する場合でも、検定料は振り込んでください。(注) 文部科学省国費外国人留学生は、検定料は不要です。

イ. 日本国外居住の志願者

クレジットカード決済により、検定料**30,000円**の支払手続をしてください。なお、支払手続は出願する前に済ませてください。

① 以下のアドレスにアクセスして、支払いをしてください。

(http://www.chiba-u.jp/exam/kaigai_kenteiryoutou/index.html)

② 検定料の支払手続終了後、千葉大学から申込内容確認のEメールが送信されます。内容確認後、そのEメールの文面を印刷して、出願書類に添付して提出してください。

(4) 出願書類等

志望する専攻等により出願に必要な提出書類が異なるので注意して下さい。

出願書類提出後には、学力検査科目等の変更を一切認めません。

○一般選抜志願者は、以下の書類を提出すること。

2. (1) 「一般選抜志願者」に該当する者	
入学願書	この要項に綴じ込んである所定の用紙に必要事項を記入してください。
受験票・写真票	この要項に綴じ込んである所定の用紙に必要事項を記入してください。
卒業(見込)証明書及び、成績証明書	出身大学の学長又は学部長が作成したもの（日本語・英語以外の場合には英訳又は和訳を添付すること）卒業見込の者は、後日「卒業証明書」を提出してください。
学位授与証明書又は学位が授与される見込であることを証明する書類	（出願資格「(1) 一般選抜」イ. 該当者のみ） 出願資格「(1) 一般選抜」イ. に該当する者で大学改革支援・学位授与機構が証明した学位授与証明書、又は学位が授与される見込であることを証明する書類（大学改革支援・学位授与機構が発行する「学位授与申請受理証明書」又は、短期大学長又は高等専門学校長が発行する「学位授与を申請した旨の証明書」）
研究計画書	●人文科学専攻：基盤文化コース、多文化共生コース、教育・学修支援コース この要項に綴じ込んである様式に記入のうえ、 5部 提出してください。なお、研究計画書は1枚で作成してください。
論文等	3部 提出してください。作成はA4判、ワープロ使用可、論文題目及び氏名を記載した表紙を付けて仮綴じしてください。出願する専攻（コース）により、テーマ・字数等が指定されています。
	●人文科学専攻：基盤文化コース、多文化共生コース 様式・枚数は指定しません。（単位として認定されたもの以外でも可。） 卒業論文がない場合、又は卒業論文と志望する教育研究分野との関連が薄い場合は、志望する教育研究分野に関連した論文を提出してください。 論文が日本語又は英語以外の場合は、論文 3部 とともに日本語要旨（1,200字以上） 3部 を提出してください。
	●人文科学専攻：教育・学修支援コース 分野を問わず、日本語の論文。10,000字から20,000字程度であれば、リサーチペーパー、卒業論文、雑誌論文など形式は問いません。
写真2枚	受験票及び写真票に貼り付けてください。 （上半身、正面、脱帽で出願前3ヵ月以内に撮影したもの）
「受験票等在中」封筒 ※日本国内から出願する者のみ	この要項に添付してある封筒に住所（日本国内）、氏名、郵便番号を記入し、 372円（速達郵便料金）分の切手 を貼り付けてください。
合格通知書等 受取先住所シール ※日本国内から出願する者のみ	合格通知書等を受け取る際の志願者の郵便番号、住所（日本国内）、氏名を記入してください。
出願書類チェックリスト	この要項に綴じ込んである様式に記入してください。

○外国人志願者は、「2. (1)「一般選抜志願者」に該当する者」の書類に加え、以下の書類を提出すること。

また、英語又は日本語でない書類の場合は、それぞれ英訳又は和訳を添付すること。

学位授与を証明する書類	(外国の大学を卒業した者のみ) 学士学位証明等の写しを提出する場合は、窓口で原本を提示してください。
住民票（原本）又は 在留カードの両面写し	市区町村発行のもの（在留資格及び在留期間が記載されたもので個人番号（マイナンバー）の記載のないもの）又は在留カードの両面写し なお、住民登録していない者はパスポートの写し（本人の氏名、生年月日、性別、在留資格を表示する部分及び日本国査証の部分）を提出してください。
学歴調書（外国人志願者）	この要項に綴じ込んである様式に記入してください。
国費外国人留学生証明書	(国費外国人留学生のみ) 国費外国人留学生であることの証明
日本語能力試験（N1(1級)）の 合否結果通知書の写し (合否は問わない)	すべての外国人志願者は、財団法人日本国際教育支援協会が主催する日本語能力試験（1級又はN1）の合否結果通知書の写しを提出してください。

5. 入学者選抜

入学者の選抜は、口述試験及び出願書類（論文等を含む）を総合して行います。

ア. 学力検査等の日時

科 目	日 時
口 述 試 験	平成31年3月15日（金）

（注）試験時間・試験場については、受験票送付時に通知します。

イ. 学力検査科目等

一般選抜 人文科学専攻（基盤文化コース、多文化共生コース）

人文科学専攻（基盤文化コース、多文化共生コース）は、第一希望指導教員の試験区分毎に学力検査科目等が異なります。各教員の試験区分は14ページ以降の「Ⅲ 人文公共学府(博士前期課程)各専攻指導教員一覧」を参照してください。

試験区分	口述試験
哲学	専門知識や研究計画について口頭で問う。
認知情報科学	専門知識や研究計画について口頭で問う。
心理学	提出された論文、研究計画、および専門知識について口頭で問う。
社会学	提出された論文および専門知識や研究計画について口頭で問う。
文化人類学	専門知識や研究計画について口頭で問う。
歴史学	提出された論文・研究計画等をもとに口頭試問を行なう。 必要に応じ、専門知識や、文献・資料の読解能力についても、適宜口頭で問う場合がある。
日本文学	提出された論文・研究計画等をもとに口頭試問を行う。 必要に応じ、専門知識や、文献・資料の読解能力についても、適宜口頭で問う場合がある。
日本語学	研究計画・卒業論文の内容について問う。また、研究遂行能力を多面的に問う。 必要に応じ、専門知識や、文献・資料の読解能力についても、適宜口頭で問う場合がある。
ユーラシア文化	関連分野の基礎知識に関する質問（語学能力なども含む）、本学への志望理由と研究テーマに関する質問を行う。
比較文化	論文や研究計画についての質疑応答を行い、専門知識・専門とする言語の能力を問う。出願時に提出した論文と研究計画書を持参すること。
言語学	専門知識や研究計画について口頭で問う。また、テキストを見せて内容解釈を問う場合もある。
日本語教育	関連分野の基礎知識に関する質問（語学能力なども含む）、本学への志望理由と研究テーマに関する質問を行う。

第二言語教育	専門知識や研究計画等について口頭で問う。出願時に提出した論文と研究計画書を持参すること。
一般選抜 人文科学専攻（教育・学修支援コース）	
試験区分	口述試験
教育・学修支援コース	研究計画や論文の内容、研究遂行能力、あるいは教育・学修支援領域に対する知識、関心や意識を問う。

6. 試験会場

千葉大学西千葉地区 人文社会科学系総合研究棟

所在地：千葉市稲毛区弥生町1番33号

＜道順＞ ・JR総武線（各駅停車）西千葉駅下車、北口から徒歩約10分
・京成電鉄千葉線（各駅停車）みどり台駅下車、徒歩約10分

7. 合格者発表

平成31年3月22日（金）15時に文学部棟前の屋外掲示板に掲示するとともに、合格者には合格通知書及び関係書類を「合格通知書等受取先住所シール」に記載した住所宛に速達・簡易書留で送付します。

なお、合否についての電話等での照会には応じません。

8. 入学試験に係る個人情報の提供について

本試験に関する個人情報の提供については、平成31年5月1日（水）から6月28日（金）までの間、受験者本人からの申し出により情報提供を行います。

なお、その際には受験票が必要となりますので、大切に保管しておいてください。

9. その他の留意事項

- （1）出願書類等に不備があるときは受理しないことがあります。
- （2）出願資格によっては、所定の出願書類の他に適宜必要書類の提出を求めることがあります。
- （3）出願書類等に虚偽の記載をした場合、記載すべき事項を記載しなかった場合及び提出すべき書類を提出しなかったことが判明した場合は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- （4）出願書類及び検定料は返還しません。
ただし、検定料を誤って振り込んだ者及び出願資格を認められなかった者が平成31年3月29日（金）までに所定の返還手続を行った場合は、検定料を返還します。返還手続の詳細については、人文社会科学系大学院学務グループに確認してください。
- （5）身体等に障害のある者で、受験上又は修学上、特別の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、あらかじめ事前相談の申請を行ってください。申請に基づき、本学関係者で検討します。
事前相談の締切日：平成31年3月5日（火）
提出書類：①事前相談申請書（用紙は人文社会科学系大学院学務グループに請求してください。）
②障害の種類及び必要とする具体的な措置等を記載した医師の診断書
- （6）受験票が試験日2日前になっても到着しない場合は、人文社会科学系大学院学務グループ（電話：043-290-2354）にお問い合わせください。
- （7）入学者選抜の過程で収集した個人情報は入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。
- （8）受験のための宿泊施設の斡旋は行いません。
- （9）日本国外から受験のために入国する場合、査証（ビザ）に関する手続については、出願者が事前に自国の日本大使館・領事館に確認して、自らの責任で手続を行ってください。

10. 入学手続

(1) 入学手続日

平成31年3月27日(水)

(入学手続の時間、場所及び提出書類等については後日通知します。)

(2) 入学時の必要経費

入学手続の際には、次の経費が必要となりますので、あらかじめ用意しておいてください。

納入する主な経費

① 入学料 **282,000円**

(注) 1. 授業料の納入については、入学後の前期分授業料は5月に、後期分授業料は10月に口座引落しにより納入願います。口座引落し手続等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。

なお、前期分・後期分授業料はそれぞれ**267,900円(年額535,800円)**です。

また、入学して2年目から、前期分授業料は4月が口座引落しの月となります。

2. 入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。

3. 入学料及び授業料が免除される制度があります。

ただし、免除範囲に限度がありますので、必ず免除になるとは限りません。

詳細は、本学ホームページ

<http://www.chiba-u.jp/campus-life/payment/exemption.html> をご覧ください。

問い合わせ先：学務部学生支援課(電話：043-290-2178)

② 学生保健互助会費 **4,000円(2年分)** 全員加入(郵便局又はゆうちょ銀行で払込)

疾病負傷の際に相互に救済し、進んで健康保持に寄与することを目的としています。

詳細は、学務部学生支援課にお問い合わせください。(電話：043-290-2220)

③ 学生教育研究災害傷害保険料 **2,430円(2年分)** 全員加入(郵便局又はゆうちょ銀行で払込)(付帯賠償責任保険を含む)

正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。

また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊した場合の補償も含まれます。

保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。

詳細は、学務部学生支援課にお問い合わせください。(電話：043-290-2162)

【その他】

西千葉地区に学生も利用できる保育園があります。ただし、利用者が定員を満たしていない場合に限り申込みができます。詳細は、学務部学生支援課にお問い合わせください。

(電話：043-290-2178)

Ⅱ 人文公共学府(博士前期課程)

案 内

目 次

1. 研究科の目的と概要	8
2. 専攻、コース、履修プログラムの名称及び学位の名称	10
3. 専攻、コース、履修プログラムの概要	10
4. 入学定員	12
5. 修了の要件	12
6. 教育方法の特例について	12
7. 長期履修学生制度について	13

Ⅲ 千葉大学大学院人文公共学府（博士前期課程）案内

1. 学府の目的と概要

グローバル化や科学技術の進展に代表される21世紀の急速な社会変化は、私たちの「現在」に様々な課題をもたらしています。地球規模の環境問題、国境を超えた紛争、連鎖する経済危機等のグローバルな課題、少子高齢化やそれに伴う地域間格差等の日本が世界に先駆けて直面している難題、これらの課題は、従来の細分化した知の体系では太刀打ちできない場合も多く、知識基盤社会が生み出す新たな知の体系がその解決に寄与することが期待されています。同時に「次世代の知」は、新たな価値やイノベーションを創出することで、次世代社会の成長を促進することも期待されています。千葉大学では、このような「次世代へ向けた知の創出機能」を果たす新領域・分野融合の新たな研究領域の開拓、産業界のニーズに応える人材養成、さらには新たな課題を見つけ出す能力を持つ人材を生み出す教育の実践を目標に掲げています。

千葉大学大学院において人文科学・社会科学の教育研究に携わるわれわれスタッフは、21世紀のグローバル社会の課題に応えるべく、千葉大学文学部（人文科学）と法政経学部（社会科学）の学士課程を基盤とし、より高度な人文科学と社会科学の教育研究を実践しつつ、「公共学」という人文科学と社会科学を融合した学際的・実践的な学問分野を特色とし、成果を蓄積してきました。

「公共学」とは、社会的課題に対する解決策を学問的に探究するにあたり、「公共性とは何か」「共生とは何か」「公正とは何か」といった倫理的目標の本質となる問題を掘り下げながら、将来的な「あるべき社会」像を求め、それを実現するために、そこから「逆算して」現時点において必要にして可能な方策を考察していこうとする研究分野です。

このような「公共学」というこれまでの強みを活かし、現代社会の要請とそれに応える全学的改革方針に基づき、人文社会科学分野における「次世代へ向けた知の創出機能」を新たに構想し、平成29年度に人文公共学府を設置しました。

人文公共学府では、「公共学的視点」に立ってグローバルとローカルの社会的課題を解決する能力を涵養するとともに、高度な専門的能力を養成し、次世代社会の課題を解決する「次世代型グローバル人材養成」を目的とします。

「公共学的視点」とは「学際性」「国際性」「実践性」「社会性」という、大学院で修得する専門知の能力を発揮すべき4つの観点です。従来、千葉大学大学院における公共研究で成果を挙げてきたものであり、「次世代型グローバル人材養成」に必須な視点として、学府全体の教育研究の基礎となります。

「公共学的視点」による課題解決能力及び高度な専門的能力を涵養・養成するため、体系的・組織的なカリキュラムや専門知の質を保証するカリキュラムを整備し、急速な社会的課題の変化に対応し得る柔軟な教育体制が必要となります。そこで、人文公共学府では、5年一貫の区分制大学院として、博士前期課程に「人文科学専攻」（3コース）「公共社会科学専攻」（3コース）の2専攻、博士後期課程に「人文公共学専攻」（3コース）1専攻を置きます。

博士前期課程は、専攻分野はもとより、学際的・総合的分野における研究能力を涵養し、又は高度専門職業人の自立的活動に必要な高度の学識を授けることを目的としています。

本課程には、人間行動の現在と過去について国際的、学際的に広く研究する「人文科学専攻」、公共学研究の他、政治学・法学・経済学・経営学等の従来からの知の体系を研究・極められる「公共社会科学専攻」という目標と特色を持つ2つの専攻があります。

出願は、専攻別となります。出願すべき専攻は、研究指導を希望する教員が所属する専攻となりますのでご注意ください。

選抜試験出願に際して、以下の情報について該当ページやホームページを参照し、検討してみてください。

○平成31年度の研究指導担当予定教員及び開設授業科目について

→14ページ「研究指導担当予定教員一覧（平成31年度）」

→人文公共学府ホームページ：<http://www.gshpa.chiba-u.jp/>

人文公共学府を担当する教員は、文学部、法政経学部、国際教養学部において学部の授業を担当しており、研究内容等について各学部のホームページに記載がありますので、確認の上、願書に希望教員名を記入してください。

文学部ホームページ：<http://www.l.chiba-u.ac.jp/>

法政経学部ホームページ：<http://www.le.chiba-u.ac.jp>

国際教養学部ホームページ：<http://www.las.chiba-u.jp>

○取得できる学位と専攻・教育研究分野の概要について

→10ページ「2. 専攻、コース、履修プログラムの名称及び学位の名称」

→10ページ「3. 専攻、コース、履修プログラムの概要」

2. 専攻、コース、履修プログラムの名称及び学位の名称

専攻	コース	履修プログラム	授与する学位
人文科学専攻	基盤文化コース	履修プログラム： - 哲学・倫理学 - 社会学・文化人類学 - 心理学・認知科学 - 歴史学 - 日本文学・日本語学 - 比較文化学 - 英語圏文化学 - 西洋古典学 - 言語学	修士（文学） 修士（学術）
	多文化共生コース	履修プログラム： - ジェンダー論 - ユーラシア研究 - 東アジア研究 - イスラーム・比較社会論 - ヨーロッパ研究 - 文化資源論 - 日本語教育研究 - 多言語社会コミュニケーション論	
	教育・学修支援コース		修士（学術）
公共社会科学専攻	公共学コース		修士（公共学） 修士（政治学） 修士（学術）
	経済・経営学コース		修士（経済学） 修士（経営学）
	Economics in English コース		修士（経済学） (Master of Arts(Economics))

3. 専攻、コース、履修プログラムの概要

(1) 人文科学専攻

人文科学と社会科学を融合させ、グローバル社会の直面する新しい課題に深い人文的教養から新鮮なアプローチを行う課題発見力を有すると同時に、グローバル社会及び地域社会との対話力・発信力を持つ人材を養成します。

公共学的視点に基づく学際性・国際性・実践性・社会性を身に付ける教育カリキュラムによって、広い教養と専門性の深化に基づく課題発見力を育成するだけでなく、海外インターンシップ等の経験による社会的行動力を育成します。

① 基盤文化コース

人間とその文化・社会に関わる人文科学の基盤的専門分野に対応した、「哲学・倫理学」・「社会学・文化人類学」・「心理学・認知科学」・「歴史学」・「日本文学・日本語学」・「比較文化学」・「英語圏文化学」・「西洋古典学」・「言語学」という9つの履修プログラムを設定します。

「基盤文化コース」で授与する学位は「修士（文学）」を基本とし、人文科学を幅広く学際的に履修し、相応の修士論文テーマであると評価された場合に「修士（学術）」を授与します。

② 多文化共生コース

1つの専門分野では扱えない複合領域的な課題である、「ジェンダー論」・「ユーラシア研究」・「東アジア研究」・「イスラーム・比較社会論」・「ヨーロッパ研究」・「文化資源論」・「日本語教育研究」・「多言語社会コミュニケーション論」という8つの履修プログラムを設定します。

「多文化共生コース」で授与する学位は「修士（学術）」を基本とし、専門分野や対象を限定し、深く掘り下げた修士論文テーマであると評価された場合に「修士（文学）」を授与します。

③ 教育・学修支援コース

高等教育などの専門的な教育における教育・学修支援の専門的知識とスキルを習得するために、専門科目を「高等教育システムに関する理解」・「学生・学修に関する理解」・「教育・教育方法に関する理解」・「フィールドワーク・実践科目」の4つの領域に区分し、各領域から選択履修します。「教育・学修支援コース」では「修士（学術）」を授与します。

（2）公共社会科学専攻

専門性と創造性を備え、変動著しいグローバル社会を的確に把握するとともに、実践的に社会の課題解決に取り組み、次世代に向けてリーダーシップを発揮する公共的人材を養成します。

公共学・経済学・経営学などの社会諸科学における専門性を身に付けた上で、隣接する人文諸科学も含む幅広い素養を兼ね備え、民間企業・公共部門のいずれにおいても社会の要請を的確に把握し、革新的な問題解決を主導していく能力を育成します。

① 公共学コース

公共学・政治学・政策学・法学・経済学にわたる学際的アプローチに基づき、「公共とは何か、共生とは何か」を追究する教育研究を行うことにより、後期課程に連動するかたちで教育を進め、グローバル化する現代社会に生起する複雑な問題に理論的・実践

的に取り組み、市民社会 を担う人材の養成をめざします。

② 経済・経営学コース

経済学を専攻し修士（経済学）の学位取得を希望する場合は、まず、基礎科目であるミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学の単位取得が必要となります。経済学の特徴は、その体系・分析手法共に、社会科学の中では際立って国際標準化が進んでいることです。本学府の経済学専攻でこの三基礎科目の単位を取得すれば、最新の論文を読みこなして専門性を深め、シンクタンク・国際機関などでの経済専門職へ進む道が開けます。

経営学分野を志望する場合には、経営学・会計学などを総合的に学ぶことによって、高度専門職業人の養成を主たる目的とし、修了後には企業などにおける組織運営者や会計専門職等の養成をめざします。具体的には、次の2つのタイプの人材を養成するための教育プログラムを整備し、関連する研究分野の高度な能力を涵養します。

- a) 第一のタイプは、企業において組織管理者（オーガナイザー）としての役割を果たし得る実践的な能力を有する人材を養成します。
- b) 第二のタイプは、会計専門職をはじめ、高度な能力を有する会計の専門家として、企業や自治体の現場で指導的な役割を果たし得る能力を有する人材を養成します。

③ Economics in English コース

講義及び論文指導を全て英語で行い、経済学を武器に国際舞台で活躍できる高度専門職業人と研究者候補を養成します。講義内容は、経済学専攻と同等です。英語で講義を受け、英文の修士論文を持つことにより、本コース修了者は、国際的教育活動の中でのその立ち位置が、通常の経済学専攻者より明確なものとなります。具体的には、協定校への交換留学や、海外著名大学院博士課程への進学が著しく容易になります。

4. 入学定員

専攻	入学定員
人文科学専攻	38
公共社会科学専攻	10
計	48

5. 修了の要件

修了の要件は、32単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ修士論文を提出し、審査及び最終試験に合格することです。

標準修業年限は2年ですが、特に優れた業績を上げた者については、修業年限の特例を適用できます。

6. 教育方法の特例について

大学院人文公共学府博士前期課程では、教育上特別の必要があると認めるときは、夜間そ

の他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行うことがあります。

履修の方法などについては、入学後指導教員と相談しながら決定することになります。教育・学修支援コースでは、社会人学生の履修を想定し、この特例を積極的に活用する予定です。

7. 長期履修学生制度について

職業を有している等の事情で、通常の学生よりも1年間または1学期間に修得可能な単位数や研究指導を受ける時間が限定される等の理由により、本学府の標準修業年限（博士前期課程は2年間）を超えて在学しなければ課程を修了することが出来ないと考える者に対して、申請に基づき、大学が審査し、標準修業年限を超えた在学をあらかじめ認めた上で在学し、計画的に課程を修了することにより学位の取得を認める制度です。

長期履修学生として認められた者は、通常の修業年限において支払う授業料の総額を、あらかじめ認められた修業年限を超えた年数（学期）で除した額をそれぞれの年（学期）に支払うこととなります。

例えば、3年間の長期履修学生として認められた場合は、2年間（通常の修業年限）に支払うべき授業料総額を3年間に分割して支払うことになります。

[長期履修学生制度の対象]

職業等に従事することにより学習時間に制約を抱え修得可能な単位数等が限定される者
申請方法等は、合格通知とともにお知らせします。

なお、長期履修学生を希望する場合は「入学願書」及び「研究計画書」の所定欄に希望する旨の表示を記入してください。

8. 問い合わせ先

千葉大学 人文社会科学系 大学院学務グループ

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号

電 話	043-290-2354
F A X	043-290-2356
電子メール	gah2352@office.chiba-u.jp

Ⅲ 人文公共学府(博士前期課程)

各専攻指導教員一覧

目 次

1. 研究指導担当予定教員一覧（平成 31 年度）（人文科学専攻：基盤文化コース、多文化共生コース）
2. 研究指導担当予定教員一覧（平成 31 年度）（人文科学専攻：教育・学修支援コース）

1. 研究指導担当予定教員一覧(平成31年度)(人文科学専攻:基盤文化コース, 多文化共生コース)

指導予定教員は、平成31年1月現在の予定であり、都合により変更になる場合があります。

<○印は、平成32年3月退職予定者です。>

<※1は平成31年度通期、※2は平成31年度前期、この期間、研修のため研究指導を担当しない教員です。>

開講予定授業科目は人文公共学府ホームページからご参照いただけます。

人文科学専攻基盤文化コース・多文化共生コース

指導教員名	試験区分 (冬季選抜)	主な科目名称 (演習科目等を除く。)	基盤文化コース履修プログラム										多文化共生コース履修プログラム						
			哲学・倫理学	社会学・文化人類学	心理学・認知科学	歴史学	日本文学・日本語学	比較文化学	英語圏文化学	西洋古典学	言語学	ジェンダー論	ユーラシア研究	東アジア研究	イスラーム・比較社会論	ヨーロッパ研究	文化資源論	日本語教育研究	多言語社会コミュニケーション論
和泉 ちえ	哲学	ギリシア哲学	*							*									
秋葉 剛史		存在の哲学	*																
内山 直樹		東洋哲学	*											*			*		
山田 圭一		言語哲学	*								*								
阿部 明典	認知情報科学	知識情報科学			*														
傳 康晴		言語認知情報学			*						*								
牛谷 智一		多様性認知論			*														
松香 敏彦		認知情報解析学			*														
渡辺 安里依		比較認知行動論			*														
一川 誠	心理学	知覚認知論			*														
木村 英司		視知覚論			*														
○須藤 昇		記憶機能論			*														
若林 明雄		認知的個人差論			*														
磯部 智加衣		社会行動科学			*														
西阪 仰	社会学	社会的相互行為論		*															*
米村 千代		家族社会学		*								*		*					
清水 洋行		地域社会学		*										*					
吉岡 洋介		計量社会学		*															
出口 泰靖		医療・福祉社会学		*								*							
鶴田 幸恵 ※1		性現象の社会学		*								*							
白川 優治		教育社会学		*															
福田 友子		国際社会学		*											*				
佐々木 綾子		国際社会福祉論		*								*							
五十嵐 洋己		社会階層論		*								*							
鈴木 伸枝		移動の人類学		*								*			*				
小谷 真吾	文化人類学	生態人類学		*									*				*		
高橋 絵里香		医療人類学		*								*							
小林 聡子		言語人類学		*					*		*								*
ガイタニディス、ヤニス		宗教社会学	*	*				*	*					*					
阿部 昭典		考古学Ⅰ				*								*			*		
山田 俊輔	歴史学	考古学Ⅱ				*								*			*		
池田 忍		美術史				*						*		*			*		
保坂 高殿		ヨーロッパ史Ⅰ				*				*						*			
大峰 真理		ヨーロッパ史Ⅱ				*										*	*		
崎山 直樹		ヨーロッパ史Ⅲ				*										*			
小澤 弘明		ヨーロッパ史Ⅳ				*										*			
岩城 高広		中東・東南アジア史Ⅰ				*									*				
秋葉 淳		中東・東南アジア史Ⅱ				*									*				
栗田 禎子		中東・東南アジア史Ⅲ				*									*				
山田 賢		東アジア史Ⅱ				*								*			*		
○趙 景達		東アジア史Ⅲ				*								*					
ピオンティーノ、ユリアン		東アジア史Ⅳ				*								*					
見城 悌治		日本思想史				*								*					
和田 健		民俗学				*								*			*		

指導教員名	試験区分 (冬季選抜)	主な科目名称 (演習科目等を除く。)	基盤文化コース履修プログラム									多文化共生コース履修プログラム							
			哲学・倫理学	社会学・文化人類学	心理学・認知科学	歴史学	日本文学・日本語学	比較文化学	英語圏文化学	西洋古典学	言語学	ジェンダー論	ユーラシア研究	東アジア研究	イスラーム・比較社会論	ヨーロッパ研究	文化資源論	日本語教育研究	多言語社会コミュニケーション論
兼岡 理恵	日本文学	日本文学Ⅰ					*							*			*		
柴 佳世乃		日本文学Ⅱ					*							*			*		
久保 勇		日本文学Ⅲ					*							*			*		
大原 祐治 ※1		日本文学Ⅳ					*	*						*			*		
田草川 みずき		日本文学Ⅴ					*							*			*		
竹内 比呂也		図書館情報学					*							*			*		
神戸 和昭	日本語学	日本語学Ⅰ					*				*						*		
岡部 嘉幸		日本語学Ⅱ					*				*							*	
金田 章宏		日本語学Ⅲ					*				*							*	
ホウダ、マーティン		日本語学Ⅳ					*				*							*	
中川 裕	ユーラシア文化	ユーラシア言語論Ⅰ									*		*						
田口 善久		ユーラシア言語論Ⅱ									*		*						
吉田 睦		ユーラシア文化論Ⅰ		*									*						
兒玉 香菜子		ユーラシア文化論Ⅱ		*									*						
周 飛帆		多文化共生論											*						*
加藤 隆	比較文化	宗教文明論						*		*							*		
○三宅 晶子		イメージ文化論						*				*					*		
土田 知則		現代文学理論					*	*									*		
山本 裕子		アメリカ文学論						*	*										
篠崎 実		イギリス文学論						*	*								*		
舘 美貴子		アメリカ文化論						*	*										
レイメント、アンドリュース		英語圏文化論						*	*										
山口 元		スペイン文学論						*									*		
泉 利明		フランス文学論						*									*		
高橋 信良		比較演劇論						*									*		
石井 正人	言語学	歴史言語学						*		*	*						*		
鎌田 浩二		理論言語学							*		*								
菅野 憲司		機能言語学							*		*		*						
吉野 文	日本語教育	日本語教育研究Ⅰ																*	*
佐藤 尚子		日本語教育研究Ⅱ																*	*
西住 奏子		日本語教育研究Ⅲ									*							*	*
村岡 英裕		多言語社会コミュニケーション論Ⅰ									*							*	*
高 民定 ※2		多言語社会コミュニケーション論Ⅱ									*							*	*
竹蓋 順子	第二言語教育	応用言語学研究							*										*
森川 セーラ		英語学習法							*										*

2. 研究指導担当予定教員一覧（平成31年度）（人文科学専攻：教育学修支援コース）

指導予定教員は、平成31年1月現在の予定であり、都合により変更になる場合があります。
開講予定授業科目は人文公共学府ホームページからご参照いただけます。

指導教員名	専門領域	主な担当科目名
竹内 比呂也	図書館情報学	専門教育論
前田 早苗	高等教育論，大学評価	高等教育制度論，大学評価論， 大学マネジメント論
織田 雄一	教育行財政学，大学運営論， 国際教育学	大学教務論
大西 好宣	比較高等教育学，非営利組織論， 国際協力論	留学支援論，プレゼンテーション指導論， アドミッション論
白川 優治	教育社会学，教育行財政学， 高等教育論	高等教育制度論，現代学生論，学生支援論
岡田 聡志	高等教育論，教育社会学，Institutional Research	教育評価論

（参考）教育・学修支援コース開講予定授業科目一覧

「高等教育システムに関する理解科目」領域	
専門教育論	竹内 比呂也（コーディネータ）
大学評価論	前田 早苗
大学マネジメント論	前田 早苗（コーディネータ）
「学生・学修に関する理解科目」領域	
現代学生論	白川 優治
カウンセリング論	羽間 京子※
メンタルヘルス論	大溪 俊幸※
学生支援論	白川 優治
大学教務論	織田 雄一
課外活動論	下永田 修二※
留学支援論	大西 好宣
「教育・教育方法に関する理解科目」領域	
プレゼンテーション指導論	大西 好宣
ライティング指導論	佐藤 宗子※
アカデミックアドバイス論	未定
インストラクショナルデザイン論	未定
キャリア教育論	藤川 大祐※
教育評価論	岡田 聡志
アドミッション論	大西 好宣
「フィールドワーク・実践科目」領域	
教育学修支援インターンシップA	織田 雄一
教育学修支援インターンシップB	織田 雄一
教育学修支援インターンシップC	織田 雄一
教育学修支援インターンシップD	大西 好宣
教育学修支援インターンシップE	大西 好宣
特別研究	
特別研究Ⅰ	竹内 比呂也，前田 早苗，織田 雄一，大西 好宣， 白川 優治，岡田 聡志
特別研究Ⅱ	
特別研究Ⅲ	

※教育・学修支援コースにおいては、修士論文の執筆にあたっては、特別研究担当者による集団指導体制をとる予定である。

※印の教員は、指導教員にはなりません。